特別講演Ⅰ

座長：岡田　弘（獨協医科大学埼玉医療センター）

泌尿器科診療に役立つ漢方薬

広島大学病院　総合内科・総合診療科　漢方診療センター
小川　恵子

漢方医学は、古代中国医学にルーツをもちますが、1500年以上の歴史を持つ日本の伝統医学で、日本で蓄積された臨床経験をもとに独自の理論が形成され発展してきたことから、日本人に適した伝統医学といえます。漢方医学には、湯液（漢方薬）、鍼灸、按摩が含まれ、特に漢方薬は、昭和中期から保険医療に組み込まれています。日本は伝統医学と現代医学の両方の視点で患者さんの訴えを診る世界で唯一の伝統医学先進国と言えます。しかし同じ病名でも、個人によって適する処方が異なったり、その効果が多様であることから、理解が難しい、エビデンスが不十分であるというご意見もあります。

漢方医学的診察は、難しいと思われがちですが、顔色を診てその人の状態がわかる、などの本能的な感覚情報の集大成です。適切な漢方医学的診察法で診察経験を重ねれば観察力や判断力を養うことができるのです。漢方医学的診断には「四診」という4つのステップがあります。視覚による「望診」、聴覚と嗅覚による「聞診」、患者から病状や自覚症状を聴く「問診」、そして患者に手を触れて診察することによる「切診」の４つです。これらの診察を元に診断し、漢方薬を決めます。診察により漢方医学的診断をおこないますが、漢方医学的概念に基づきますが、その一つが五臓です。

五臓のうち、泌尿器科と最もかかわりが深いのは、「腎」です。この講義では、「腎」そして、泌尿器科疾患と関連の深い「加齢」に焦点を絞って、現在までに分かっているエビデンスも交えてお話します。